

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2023. 6. 8

No.15 文責 荒木秀

小林先生に学ぶ

みなさん、国語の音読って、どうされていますか？内容を理解するためには、ある程度回数を重ねて読む必要があります。「先生に続いて読む」「丸読み」「役割読み」「たけのこ読み」…子ども達が飽きずに読むことができるように、いろいろな読み方が開発されてきました。

国語の物語文の学習をする3年生。小林先生の音読方法はCDを活用し、プロの音読に合わせ、子ども達に読ませていきます。プロのスピードに必死についていこうと、みんな音読に夢中です。漢字の読み方も自然と覚えていきますね。面白いのは、会話文（「 」）になると、声色を変えて読んでいる子が多いことです。これも、プロのやり方を真似て、やっているようです。ぜひ真似してみたいと思いました。



ルーズ



アップ

子ども達が、「やらされている」と感じず、自然と活動に入っているっていいですね。子ども達は既に「やりたくなっている」のです。こんな仕掛け（環境）を作っていきたいですね。「環境が人を動かす」これを「アフォーダンス（知覚や行為をうながす）」というそうです。環境を整えれば、子ども達は自然と動き出すのかもしれませんが。

2年生教室では、一人一人が自分のペースで学習を進めていました。これも白田先生の「板書（見通し）」というアフォーダがあったからです。中庭は、斎藤さんのアフォーダですね。

